

## 平成29年第 4回定例会－12月06日-04号

◆24番（西哲史君）（登壇）皆さん、お疲れさまです。ソレイユ堺の西哲史でございます。会派を代表し、4巡目の大綱質疑を行わせていただきます。先ほどの山口議員の質疑にもありましたけれども、本年、堺市の骨髄バンク登録拡大に向けた取り組みは大きく進捗をしました。昨年11月、私にとって大事な友人であった日比健太郎名古屋市議会議員が急逝しましたが、恥ずかしながら彼が罹患して初めて私は骨髄バンクにドナー登録しました。骨髄バンクの存在は知っていたにもかかわらず、我がことにならないと登録しない私自身を激しく恥じながら、この1年間公私にかかわらず骨髄バンク登録に向けて全国の自治体議員の仲間たちと取り組んでまいりました。その結果、全国でドナー助成制度の導入自治体が急増し、本年11月、マニフェスト大賞の最優秀政策提言賞を受賞することとなりました。堺市が導入するクラウドファンディングという手法を用いたドナー助成制度という国内では唯一の事例となりますが、クラウドファンディングの国内第一人者は堺市出身の方でもあり、新しい手法を活用した市民参加を呼びかけていく堺らしい事例として興味深いものだと考えています。

また、関西骨髄バンク推進協会と堺市が共同開催している献血併行型ドナー登録会も積極的に実施した結果、登録数は昨年度の15人から47人と現段階で既に上回り、語り部講演会や映画上映会実施などの啓発の取り組み、堺東献血センターにおいても登録の呼びかけをしていただく等、大きく取り組みが進んでいます。この確実に命を救える取り組みの大きな進捗に当たっての市長のリーダーシップに対して、大きな敬意と感謝を表したいと思えます。引き続き積極的な取り組みの推進を心からお願いするとともに、今月14日に堺市役所前で行われる献血とドナー登録の並行登録会でのドナー登録を、この議場にいらっしゃる皆さんや職員の皆様にもお願い申し上げます。あわせて、中谷総務局長、並行登録会にもかかわらず、市職員が献血するときは職免、でも同じときにドナー登録するのは特別休暇で対応するしかないというおかしなことも起きているようですので、14日の並行登録会にそのような問題が起きないように、可及的速やかな対応をよろしくをお願いをしたいと思います。

さて、まず初めに、国際交流についてお伺いをしてまいります。

本年10月、私は中華民国政府外交部の招聘による日本青年台湾研修団の副団長として、約30人の超党派の自治体の議員の皆さんとともに訪台をしてまいりました。大学院時代の恩師で、李登輝総統の友人であり、日台関係の専門家であった小島朋之先生引率のもと訪台をして以降、三度目の訪問でありましたけれども、台湾と日本の交流やきずなの深さを改めて実感をする機会が多々ありました。

政令指定都市に相当する直轄市である台南市では、友好都市である仙台市を初め非常に多くの日本国内の自治体との友好の記録が展示をされていました。また、中華民国政府外交部によると、ほとんどの県知事が訪台をしており、政令指定都市各市も台湾を多く訪れてい

るとのことでした。堺市においても台湾との間にさまざまな民間の交流が進んでいます。

そこでお尋ねをしますが、台湾と本市との交流の現状と今後どのように交流を進めようとされているかお示してください。

次に、J R西日本との包括連携についてお尋ねをしてみたいです。

平成28年の第3回定例会の大綱質疑において、公共交通へのトリップシフトや無人駅の問題、鳳駅前駅の駅前活用、上野芝駅の踏切の課題、津久野駅の改札設置や自由往来の課題といったまちづくりの問題解決や、百舌鳥駅の世界文化遺産登録に向けた取り組み等の観点から、基礎自治体として初のJ R西日本との包括的連携協定を結ぶ検討を求めました。

それを受けて、田村副市長が取り組みの積極的な音頭をとっていただき、関係各位の多大なる御尽力により、ついに本年8月、西日本旅客鉄道株式会社との包括的連携協定を結ぶことができたことと灰聞をしております。そこでお尋ねをしますが、締結に至った経緯やこれからこの包括的連携協定を通してどのような取り組みを行っていくのかについてお示してください。

次に、ふるさと納税についてお尋ねをしてみたいです。

本年2月の淵上議員の大綱質疑や、私の総務財政委員会の質疑で、ふるさと納税について返礼品競争が過熱化をしており、堺市としては交付税措置分を読み込んでも、約1億円収入が減っている状況について取り上げました。その後の国の動きはどのようになっていますでしょうか。また、国に対して指定都市市長会を通じて積極的に堺市として状況の改善を求めたいと申し上げましたが、今どのように取り組んでおられるかお示してください。

次に、大雨時の河川の水位測定とハザードマップについてお尋ねをしてみたいです。

先日、10月22日の夜、大きな降雨が発生した結果、避難情報が市内各地で発令をされました。大雨が降る中で、私の地元の西区でも石津川の水位上昇に伴って浜寺石津町東5丁、浜寺船尾町西1丁、鳳東町6丁、津久野町1丁から3丁、下田町、鶴田町の浸水想定区域に避難準備、高齢者等避難開始が発令され、肝を冷やしました。その夜、避難所を回らせていただきましたが、これまでにないくらいたくさんの方々方が避難されており、私のもとにも何件も心配の声寄せられました。それ以降、地域でこの大雨のときの状況について、さまざまな話題が出ます。そこでお尋ねをしますが、避難情報発令の判断基準やその仕組みはどのようになっているかお示してください。

次に、循環型社会形成に向けた成果指標についてお尋ねをしてみたいです。

本市では、昨年3月、第3次堺市一般廃棄物処理基本計画が策定されました。この中では、リサイクル率、括弧、事業系一般廃棄物減量等計画書の報告値を含めない場合、括弧閉じるは、2014年の18.9%から2020年に20.6%に、リサイクル率、事業系一般廃棄物減量等計画書の報告値を含める場合は、2014年度の25.2%から28.5%に、そして家庭系リサイクル率は、2014年度の19.7%から20.2%にと、いずれも目標を大きくしていく計画目標を掲げています。また、この計画各所にリサイクルという言葉がありますし、この計画について議論する廃棄物減量審議会や環境審議会においてもリサ

イクルという言葉が議論の俎上によくのります。そこでお尋ねをしますが、この計画におけるリサイクル率の優先度について、本市の考え方を示してください。

最後に、津久野駅についてお尋ねをしてみたいです。

何度となく堺市議会本会議や建設委員会に取り上げさせていただいておりますけれども、津久野駅周辺のまちづくりに関する地域からの要望の経緯について、改めて示してください。

以上、6項目にわたって質問をさせていただき、降壇をさせていただきます。

(田淵和夫副議長、野里文盛議長にかわり議長席に着く)

○副議長(田淵和夫君) これより答弁を求めます。

◎文化観光局長(笠谷実君) 本市と台湾との交流につきましては、日台少年軟式野球親善交流大会の本市での開催や、堺高校と台湾の新北高級高等学校との交流、桃園市女性合唱協会の本市公演など、スポーツ、教育、文化など幅広い分野での交流が促進されております。とりわけ平成28年2月に台南市を襲った大地震の際には、その前年、当時の頼台南市長が本市を表敬されたこともあり、本市からお見舞金を届けたところでございます。その後も同市とは交流が続いており、現在、頼市長は台湾の行政院長、首相に就任されております。また、頼市長に同行して来堺されました李議員も現在、農林水産省副大臣につかわれておられます。加えて、台湾の鴻海精密工業とシャープ株式会社が資本提携をし、平成28年にはシャープ株式会社は本社を本市に移転したところでございます。

このような状況を踏まえ、今後とも市民、事業者、行政面でのさまざまな交流を深めてまいりたいと考えております。以上でございます。

◎市長公室長(柴信君) J R西日本との包括的連携協定について御答弁申し上げます。

本協定は、公民連携によるまちづくり、あるいは地域経済の活性化に向けて締結されたものでございます。百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産の国内推薦候補として選ばれたことを契機としまして、ことしの8月29日に西日本旅客鉄道株式会社J R西日本と包括的連携協定を締結するに至りました。J R西日本と包括的連携協定を締結いたしますのは、基礎自治体としましては西日本初の取り組みでございます。本協定は、相互に情報や意見の交換に努め、協働による取り組みを進めることにより、堺市内の地域と鉄道の持続的発展を図ることを目的としております。具体には、観光、文化の振興に関する事、駅を中心としたまちづくりやアクセス改善に関する事、地域の安全・安心の確保と暮らしの向上に関する事、百舌鳥・古市古墳群のPR等に関する事などを内容としてございます。今後とも庁内関係部局で連携しながら、これらの取り組みを進めてまいります。以上でございます。

◎財政局長(田中昇治君) ふるさと納税についてお答え申し上げます。

まず、国などの動きでございますが、本年4月1日付で総務大臣から各都道府県知事に対しまして、ふるさと納税に係る返礼品の送付などについてと題する通知が発出されたところでございます。それまでも国は、各地方自治体に対しまして良識ある対応を要請してきたところでございますが、一部の自治体におけます返礼品の状況に照らしまして、制度の趣旨

に沿った責任と良識のある対応を徹に徹底するよう要請する内容となっております。

具体的には、返礼割合が3割を超える返礼品を送付しております自治体においては、速やかに3割以下とすることなどが記載されてございます。また、当該通知を受けまして、自治体におきまして返礼品のあり方などについての見直しの動きが全国的に広がりつつあるところでございます。ふるさと納税の寄付金額につきましては、全国的に上位の自治体の過半数において、今年度の見通しが昨年度に比しまして減少するとの報道も見られるところでございます。

続きまして、本市の対応についてでございますが、指定都市市長会の担当課長の会議におきまして、返礼品に関する一部自治体の状況を踏まえ、国への要望内容などに関し意見交換を行ったところでございます。本年11月には、指定都市市長会の税制改正要望といたしまして、本来の趣旨に沿った制度となりますよう、見直しを行う旨、国に対し働きかけを行ったところでございます。以上でございます。

◎危機管理監（戸奈章君） 河川氾濫に関する避難情報発令の判断基準や、その仕組みについて御答弁申し上げます。

本市では堺市内の河川のうち、一たび氾濫すれば人命にかかわるような被害を生じることが予測されております大和川、石津川、西除川、東除川の4河川については、堺市避難勧告等の判断伝達マニュアルにおいて、避難情報を発令する判断基準となる水位を定めております。今回の10月22日の台風21号の接近時には、大和川、西除川、石津川の水位がこの判断基準に達し、さらに水位が上昇することが予測されたため、これら河川に係る浸水想定区域に対しまして、避難情報を発令いたしました。以上でございます。

◎環境局長（池田浩一君） 循環型社会形成に向けた優先度の考え方についてお答え申し上げます。

平成28年3月に策定いたしました第3次堺市一般廃棄物処理基本計画では、4Rを基本として、発生源でごみを絶つこと、リフューズ、ごみとなる物を減量すること、リデュースを優先し重点を置くとともに、ごみになった物については繰り返し使うこと、リユース、再資源化すること、リサイクルの順に、循環的な利用を徹底することで、廃棄物の減量化、リサイクルに取り組むことといたしております。

なお、廃棄物の減量化、リサイクルの進捗をはかる指標といたしましては、1人1日当たりの家庭系ごみ排出量、1日当たりの事業系ごみ排出量、リサイクル率、清掃工場搬入量、最終処分量などの指標を設定してございます。以上でございます。

◎建築都市局長（窪園伸一君） 津久野駅東西往来と天竜川駅と都市計画マスタープランについてお答えいたします。

津久野駅に関する地域からの要望経緯ですが、駅の両側に駅前広場があるにもかかわらず、駅改札が東側のみとなっております。このことから、長年地域より駅西側への駅改札設置について御要望いただいております。市ではこのことにつきまして、西日本旅客鉄道株式会社に対し、幾度となく要望を行ってきたところでございます。また、西側から東側改札へ

行くための斜路つきの地下通路がございますが、これがバリアフリーの基準を満たしておらず、高齢者や車椅子の方などが御利用しにくい状況となっております。自転車を降りずに乗ったまま斜路を走行する方もおられることから、安全上の問題からも改善が必要である旨の御要望をいただいております。

このような課題があることから、津久野駅について、事業者と協力しながら対応していく必要があると考えてございます。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 御答弁ありがとうございました。ここからは一問一答で質疑を進めさせていただきたいと思っております。

一つ目の台湾との国際交流について、さまざまな取り組みについて御報告をいただきました。非常に取り組みがさまざまなレベルで、特に民間のレベルで進んでいるということは、非常に喜ばしいことだと思っております。今、御答弁の中にありました、先日、台湾の首相に就任をされた頼行政院長、前台南市長の腹心中の腹心で、台湾の農林水産省副大臣に先月就任をされました李退之議員、そして、その妻様でもあり、かつ台南市台日友好交流協会の理事長でもある郭貞慧理事長にも私も台南市のレセプションで御一緒をさせていただきました。私が堺から来ましたと自己紹介したところ、すぐに李議員からも郭理事長からも、竹山修身市長は友達です。市長選挙当選よかったです。頼前市長、現行政院長も友達である竹山市長の当選をととても喜んでおられました。ぜひお祝いをお伝えをくださいとの伝言をいただきました。お伝えをさせていただきます。

行政院長と我が竹山市長のこのような友情関係は非常に貴重なチャンスであると思っております。このチャンスを生かし、県知事のほとんどが訪台をして、政令指定都市も何市も台湾を訪問をしている中で、シャープと鴻海や本市に本社を置く世界最大の自転車部品メーカーシマノと、台湾に本社を置く世界最大の自転車メーカージャイアントとの企業間交流を初めとしたさまざまな民間交流をしている堺市が、さらに交流を深める方法がないか、積極的な模索をお願いをしておきたいと思っております。

先ほどの池尻議員の質疑にもありましたけれども、やはり自治体間の交流がそういう国家間、さらには市民間の信頼醸成であったり、交流の強化につながるということは、市民にとっても大きな利益のあることだと思っております。ぜひとも積極的な取り組みをお願いを申し上げまして、1問目のこの項目は終了させていただきます。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員の質疑の途中ではありますが、この際、午後3時30分まで休憩をいたします。

○午後2時50分休憩

○午後3時30分再開

○副議長（田渕和夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

西哲史議員の質疑を継続いたします。24番西哲史議員。

◆24番(西哲史君) JR西日本との包括的連携協定について御答弁をいただきました。基礎自治体として、JR西日本と包括的連携協定を締結するのは初めてということで、JRの中でも注目が集まっているようにお聞きをしています。なかなかお互いウイン・ウインになっていくというのは、いろいろと難しいところもたくさんあると思いますけれども、ぜひ、市内でお互い何が連携をできるか、ぜひたくさん検討していただいて、さらに取り組みの進化をさせていただきたいと思います。

資料2をお示しをいただけますでしょうか。先日の上野芝校区のウインターカーニバルでも、JRの鳳管区の駅員さんたちがたくさん出て、子どもたちにもさまざまな模型を初め、さまざまなブースを提供されていました。市長も見ていただいて非常に感心をされていたと思いますけれども、これも一つの包括的連携協定のたまものかなと理解をしております。さまざまに、去年に比べてはるかにたくさんの方が出てきていただいたそうでありますけれども、さまざまにこういう取り組みが地域なり堺市とJRさんが取り組み、一緒に進化をしていく、これがまちづくりが進んでいくということになると思いますので、ぜひ進化をよろしく願い申し上げておきたいと思います。

次の項目に移らせていただきます。

ふるさと納税についてお答えをいただきました。過度な返礼品競争で、何か牛肉とか、そういうことで非常に過度な返礼品競争が加速をしていると、この状況は非常に問題だと思っています。総務省が通達を出したことで、通知を出したことで、少しはましになってきているということではありますけれども、報道を見る限り、その通知にまだまだ反旗を翻すといえますか、通知に従わない中で、まだ過度な返礼品もあるというふうにお聞きをしています。地域ではもっと堺市も返礼品をたくさん出したらいいねんと、だから集まらへんねやという声も聞きますけれども、そうではなくて、やはりこの趣旨は、ふるさとにしっかりとコミットをしてもらおうということ、気持ちのコミットも含めて、コミットをしてもらおう中で、税収が上げればいいなということだと思っておりますので、それに関してはきっちり指摘をしていくということは大事だと思っています。

政令指定都市の市長会でも意見を出していただいたというふうに聞いております。それについても、ぜひ堺市の立場は何なんだということもしっかりと発信をしていただいていると思いますけれども、さらにこの状況を見きわめながら、しっかりと改正の要望を出していただく、結果として堺市は1億も収入を減じている、これは国の制度の問題だけではなくて、堺市はもっと取り組まなきゃいけないということもあるかと思っておりますけれども、結果としてこういうことによって、堺市の収入が、交付税措置分を含めても1億も減じているということも、しっかりと国に働きかけて是正をしていただきたいと思います。思っております。

そんな中で、2月の議会で提案をさせていただいたのは、地域愛につなげていくことが、この制度の趣旨だと思っています。そういった中で、今、堺市は市長がいつも堺愛とおっしゃいますけれども、堺の皆さんは堺に対して非常に、全体に対しても愛があつて思いがありますから、ほかのところと比べれば、はるかにましといえますか、はるかに地域全体に対す

る愛はあると思いますけれども、とはいいいながら、そういう市立学校とか小学校、中学校単位で、ふるさと納税を集められるような仕組みをつくっていくことも、非常に地域愛を深めてコミットしていくこととして大事なんじゃないかと思っているわけでありましてけれども、市立学校の特色ある取り組みに対して、ふるさと納税を活用していくことも含め、今年度実施した取り組みと、今後どのように取り組んでいくかについてお示しをいただけますでしょうか。

◎財政局長（田中昇治君） 今年度新たに6つの事業を加えたところがございます。例えば南区の緑道をより安全で楽しくウォーキングなどの健康づくりに利用できる環境にするための整備事業ですとか、市民の方々の保存活動により破壊の危機を免れたいたすけ古墳を今後も守っていくための環境整備事業といったものがございます。そのほか今後導入を検討しているものとして、市立学校の授業に対する寄附の募集がございます。校区単位で実施いたします特色ある授業に対しまして、ふるさと納税を活用するべく、他の市の事例調査を踏まえながら、今年度内の制度開始に向け庁内で調整をしているところがございます。

本市のふるさと納税の取り組みにつきましては、シティプロモーションという観点からも、寄附金をいかに創意工夫ある使い道につなげるかという点が重要であると認識してございます。事業の目的が本市の文化的資源などとなり得る事業のほか、市費のみで事業活動を支援することが活動の趣旨に照らしまして必ずしもそぐわないといった事業、また特定の人々、または地域においてはなじみ深い施設などの保全に役立てる事業であって、地域の課題解決に資するものなど、今後とも工夫を図りながら、寄附金の使途拡充に全庁的に取り組んでまいりたいと考えてございます。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田淵和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 寄附金の使途拡充には、ぜひもっと取り組んでいただきたいと思いますが、本市のふるさと納税制度は、過度な返礼品競争などに依存しておらず、この制度の趣旨に合致したものであるということは理解をしておりますけれども、どちらが縦か横かは別にして、少し縦串と横串の議論が逆になってないかなというふうに考えています。本市はどんどん具体的事業を示して、事業割でふるさと納税を集めようとしているように感じますが、それではふるさと納税がまだまだ集まりにくいのではないかという懸念を持っています。そうではなくて、地域割という横串化を図っていくことによって、ふるさと納税をする側にとっては、ふるさとへ納税し、ふるさとを大事にしていくという制度趣旨に合致しやすくなるかと考えています。

例えば中学校区単位ぐらいで地域の住民が、その地域の課題解決に必要と考えている取り組みや事業に対して議論し活用できる前提で、ふるさと納税による支援を募ることは、堺市にとっても税収増につながりやすいと思います。そのことによって地域自治も醸成をされると思います。堺のその地域で生まれ育ったものの、現在は堺を離れて生活している方に

とっても、ふるさとを応援したいと思う気持ちの受け皿になりやすく、少なくとも堺出身の遠方におられる方にとっても、ふるさとへの気持ちのコミット、気持ちの参加につながってくることになると思います。そして、その中でUターンへの意識づけにもつながってくる場合もあると確信をしています。ぜひこの縦串と横串の議論を意識していただいて、寄附募集の制度設計について議論を加速していただくことをお願いをさせていただきたいと思ひます。

次の項目に移らせていただきます。

大雨時の河川の水位測定について、大和川、石津川、西除川、東除川について、水位の判断基準について御説明をいただきました。

さて、先ほど申し上げましたが、私の地元の石津川についても避難準備勧告等々出されて肝を冷やしたわけでありましてけれども、この石津川の水位、どこでどのように観測しているかお示しをいただけますでしょうか。

◎危機管理監（戸奈章君） 石津川は水防法において河川管理者、大阪府でございますけれども、洪水の危険性を把握するため、水位情報を公開することとなっている水位周知河川に指定されていることから、観測を行っているものでございます。石津川の観測は、河川管理者であります大阪府によりまして、石津川下流部としては、石津町の戎橋観測所、上流部としましては、中区八田西町1丁の万崎橋観測所の2カ所に設置され、その水位はインターネットでどなたでもごらんいただけるようになっております。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 今お示しをいただいたのは、石津川の水位は石津町の戎橋観測局と、万崎橋観測局の2カ所で計測をされているということで、それぞれインターネットで見られるようになってきているというのは非常にいいことだと思いますけれども、この2カ所ということに非常に少し心配を持つわけでございます。特に石津・百済合流点について、非常に合流点ということで、私、土木は素人ではありますが、この合流点で非常にいろんなことが起きるじゃないかという不安を持たざるを得ない部分もあります。実際、今回の避難準備勧告もその周辺についても出ている部分もあります。こういった意味で、この2カ所だけでいいのかという懸念を持ちますけれども、この状況の中でよりきめ細かく監視をしていく対応が重要と考えますけれども、取り組み状況についてお示しをいただけますでしょうか。

◎危機管理監（戸奈章君） 石津川では、今、御答弁申し上げましたように、上流域の万崎観測所、下流域の戎橋観測所及び中流域の水位観測に加えまして、河川監視カメラによりまして監視も行っているところでございます。また、石津川流域であります百済川では、津久野観測所におきましても、水位計による監視を行っております。

近年の河川氾濫の発生状況等を踏まえまして、国土交通省からは河川管理者による水位計や河川監視カメラのさらなる整備、この方向も示されております。本市では水位の監視を強化するとともに、市民の適切な避難行動につなげるため、府の河川管理者と連携いたしま



して、水位計や監視カメラの設置を促進してまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） まずは、このお話を聞いて、この2カ所だけじゃなくて、鶴田町や津久野町で監視をしていただいているということ、特に鶴田町の水位計による監視というのは、地域住民にとっては非常に安心ができるということだとは思いますが、しかしながら、1つは、それぞれ台風災害時、台風等の時期を見ていると、さまざまな水位計が、1カ所は結局と言いますか、要は整備中であったり、もしくは何か調子が悪くてメンテナンス中であったりということで、はかれない場合もありますので、この3カ所でいいのかなというような不安もまだまだ持たざるを得ません。3カ所あることで非常に安心をしておりますけれども、この点については踏まえていただいて、もう少し丁寧な観測をしていただきたいと思います。大阪府の管理河川でありますので、堺市としてなかなか一朝一夕にできるものではないのはよくわかっておりますけれども、ぜひ大阪府に対してもしっかり申し入れしていただいて、水位計を設置をしていただきたい、観測ポイントをふやしていただきたいと思っております。

特に河川監視カメラ、あるのは、ないよりあったほうがいいのはよくよく承知をしておりますけれども、このときもこの台風接近時も私、インターネットで河川監視カメラ、見せていただきましたけれども、正直申し上げて、夜だったので全く水位については、少なくともネット経由ではカメラを見ても何もわかりませんでした。こういうことも含めて、水位についてはしっかり監視をしているということを取り組んでいただきたいなと思っています。

こういった意味では、堺市のほうでは、堺市の管理河川の狭間川等々では、水位情報についてメールで発信をされているということがあるというふうに、試験的に開始をされたというふうにお聞きをしています。実は、今回の台風災害時も、非常に危険な状況であるというふうにもメールやネットで流れれば流れるほど、この石津・百済合流点にもたくさん見に行った方がいるというふう聞いています。非常にこの状況、危険だと思います。見に行っても災害に巻き込まれるのは非常に危険だと思いますが、一方で、カメラを見ても水位も全く見てもわからないし、どうなっているんだろうかというふうに気になってしまう心理も理解できないことはありません。そういった意味で、こういう狭間川で水位情報をしっかり希望される方にはメールを配信をしていくということも、非常にすばらしい取り組みだと思います。しっかりと、まずはモニターを専門的にしていただく、そして、できる限り情報を市民にも共有していただくような仕組みをつくっていく、ぜひお願いをさせていただきたいと思います。

さて、今回、もう一つの観点として、さまざまな方から私のところに、うちの家は大丈夫かと、水があふれないかというようなお電話も、率直に申し上げてありました。私に聞かれてもと思うところは正直ありましたけれども、うちは大丈夫かと、うち危ないか、危な

くなったら西君メールしてねと、電話してねと言われた方、複数あります。私に聞かれても非常に困る部分ありましたけど、それに対してどうお返しをするかといえば、私はハザードマップをスクリーンショットして、誰々さんのおうち、私その方のおうちは知ってますから、そのおうちの一帯は、ハザードマップにこう載ってますよ、ああ載ってますよということをお伝えするしか私にとっては方法がなかったわけでありますけれども、そういったハザードマップについて、まだまだ自分の家がどういう状況になるのか、自分の御近所がどういう状況なのかということをおハザードマップを見て調べているという方が、その後もいろんな方と話しましたが、余り伝わってないんだなということが感じました。このハザードマップ、確かに全戸に配っていただいているのも承知をしておりますけれども、それでも、その存在を知らない方もまだまだたくさんいます。

このハザードマップについて、今回の台風の災害があったことによって、これまで地震ということに、どちらかというところに関心が偏りがちだった中で、水害にも改めて注目が集まっているんだと思います。そういった意味では、非常にこれをハザードマップを伝えていくという意味では、機会が高まってきているといえますか、機運が高まってきていると思いますので、ぜひハザードマップについて活用していただきたいと思っておりますけれども、この活用についてどうお考えかお示しをいただけますでしょうか。

◎危機管理監（戸奈章君） 災害が迫ったときに適切な避難行動をとるためには、日ごろからその場所の災害リスクを理解いただき、避難場所や経路を把握することの備えが非常に重要でございます。そのために見やすくわかりやすい区別のハザードマップを作成し、今回、本年5月各戸にお配りしたところでございます。これ以外にも、地域の避難訓練でありますとか、防災研修会等、さまざまな機会を通じまして、市民の皆様への普及にしっかり取り組んでまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） ぜひですね、この普及をお願いしたいと思います。特に何度も本会議や委員会で取り上げさせていただいてますけれども、DIG、シミュレーションをしっかりとやっていただく参加型の訓練をすることによって、こういうハザードマップの内容の周知が広がっていくと思いますので、DIGの活用も含めてお願いをしたいと思います。

続きまして、循環型社会形成に向けた成果指標についての項目に移らせていただきますが、リサイクル率の優先度についてお答えをいただきました。4Rの1つということでもありますけれども、そして、リサイクル率の向上をめざしているということでもありますけれども、このリサイクル率、これが上がることが環境にとってといえますか、循環型社会の形成にとっていいことかのような議論が報道でもさまざまな場所でされているように感じています。

実は、リサイクル率が上がることが、単純に環境にいいことといえますか、循環型社会形成に役立たないこともあり得るのではないかというふうに考えておりますけれども、市の考え方についてお示しいただけますでしょうか。

◎環境局長（池田浩一君） 議員御指摘のとおり、リサイクル率が向上したとしても、ごみの総排出量も増加していれば、ごみの発生・排出抑制の観点からは好ましくないと考えております。本市としては、資源物を含めたごみ総排出量の減量を推進することを第一に、これと合わせて、分別されずに生活ごみの中に多く含まれている分別回収品目のさらなる分別協力を啓発していくことなどにより、ごみの総排出量の減量とリサイクル率の向上との両立を図ってまいりたいと考えてございます。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） まさにそういうことだと思います。リサイクル率の向上が、向上したとしても、ごみの総排出量が増加をすれば、結果としては環境モデル都市としての循環型社会形成にはつながらないこともあり得るということだと思います。リサイクル率の向上を至上命題にし過ぎると、要はインプットをふやせばふやすほど、リサイクル率は上がってしまうということになりかねませんので、リサイクル率という指標を余り上位の指標にしていくということは好ましくないのではないかなというふうに考えております。そういった意味で、リサイクル率よりも、資源使用量を減量させる指標づくり、もしくはその指標をしっかりと優先的に位置づけていくということが必要ではないかと思っておりますけれども、お考えをお示しをいただけたらと思います。

◎環境局長（池田浩一君） 資源使用量の減量につきましては、1人1日当たりの家庭系ごみ排出量、また1日当たりの事業系ごみ排出量といった指標により、間接的に類推可能であると考えております。しかし、より直接的に資源使用量の減量を把握するための指標づくりについては、今後の検討課題であると認識しており、専門家等の御意見を伺いながら、調査研究を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） ぜひですね、次の第3次堺市一般廃棄物処理基本計画の改定に向けての議論の中では、現行のようにリサイクル率の項目が高く出てくるのではなくて、資源使用量の減量をどのように進めていくか、そういった観点でしっかりと指標を設定をしていく、そういった検討をぜひともよろしくお願いを申し上げたいと思います。

次の項目に移らせていただきます。

津久野駅についてお答えをいただきました。何度も何度もここでも議論して恐縮ではございますけれども、改めて認識をお示しをいただいたと思っています。資料6をお示しをいただけますでしょうか。松原市の図書館で津久野の住民の方が堺の文化を育てる市民の会の冊子を見つけてこられて、私の手元にお届けいただきました。さまざまな方が私と堺というタイトルで、それぞれの堺の各地の地元の話を書いておられて、興味深い内容になっております。堺愛を掲げておられる市長にとっても、非常に興味深い内容ではないかなと思います。

その中で、津久野の方が我がまち堺を思うと題して、1981年5月に堺文化ニュース第29号に投稿されている原稿が引用されていました。その中で、以下のような内容がありますが、プロジェクターで見てもわかりにくいので、一部抜粋して読ませていただくと、駅はできたが、駅の北側は田んぼなので、出改札は団地のある南駅だけ、地元では北駅も開いてほしいと。将来スラム街化するおそれのある土地も含めて、地主に協力を呼びかけ、堺市津久野土地区画整理組合を発足させた。組合員一同、愛する津久野の発展を願って、父祖由来の大事な土地を一時組合に預けた。そして、駅前広場や道路、公園をつくった。工事費捻出のためには、土地を売却してこれに充てた。その後の残った土地も、もとの所有坪数に応じて組合員に返したので、面積は3割から4割も少なくなった。それなのに、北駅はいまだに開かれていない。組合員の血の涙を流して提出した駅前広場は、今、格好の駐車場になっている。中略しますが、地元の人たちが団地造成や駅前広場などで最大の犠牲を払って堺市に貢献した。だが、今なお一番不便を強いられているのも地元の人たちであろう。津久野の念願である駅の両眼が開く日はいつのことであろうかと書いてあります。

つまり、こういう資料をたくさん見ていると、いつも出てくるのは、この減歩の話といいですか、まさに今、堺でもよく言葉に出ますけれども、市民協働といいですか、市民の皆さんの御参加をいただきながら、こういうまちづくり行われたにもかかわらず、いつまでも未完成、地元から見たら未完成の現状になっているということなんだと思います。この思い、ぜひ酌んでいただきたいと思っております。特に改札、そして東西の自由往来の課題、ぜひ御理解をいただけたらと思っておりますけれども、資料は終わってください。

その中で、津久野の市民の方から、別の方ですけれども、私のところに情報提供がありました。ことしの秋、浜松市で全く津久野と同じような課題を抱えていた天竜川駅が完成した、これ津久野駅ととても似てるんじゃないかというふうなサジェスションといいですか、情報提供をいただきました。同じ政令指定都市の浜松市の天竜川駅周辺の整備の取り組みについてお示しをいただけますでしょうか。

◎建築都市局長（窪園伸一君） 天竜川駅は、浜松市の東部に位置するJR東海の駅でございます。駅周辺地区は、都市計画マスタープランで生活サービス等の機能の集積を図り、日常生活のよりどころとなる地域生活拠点に位置づけられております。同駅にはもともと改札や駅前広場が北側にしかなく、南側から駅にアクセスするには遠回りする必要があることから、南側からのアクセス改善及び南北の自由往来が長年の課題となっておりました。そのような中、地元から南側からのアクセス改善について要望があったと聞いております。

そういった中で、浜松市とJR東海等においては、平成25年に駅南北自由通路の整備と橋上駅舎化を行う覚書を締結するとともに、あわせて駅南北の両側での駅前広場の整備を行うことを決定されました。平成27年度に工事が着手され、自由通路及び橋上駅舎につきましては、本年9月に供用開始、また駅前広場についても平成30年度供用開始が予定されているということでございます。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 資料4をお示しいただけますでしょうか。

今、御答弁をいただいたこと、先日、私、天竜川駅行ってきましたけれども、このような資料が9月に浜松の天竜川駅周辺の皆さんに配布をされています。まさに南北を東西と読みかえれば、ほとんど同じような問題の中で、南北自由通路、橋上駅舎ということで、今、天竜川駅周辺の皆さん、非常に喜んでおられます。資料3もお示しをいただけますでしょうか。まさにこの天竜川駅、こういう状況でありまして、駅西側にある、これ南北が、これJRに張ってあった地図ですので逆なんですけども、駅西側にある急峻な歩道橋以外、南北の自由往来が不可能であった状況を改善をしたということでございます。資料は消してください。

この天竜川駅、今、御答弁でお示しをいただいたように、地域生活拠点に位置づけられている中で改善をされていったということでもありますけれども、では、堺市の都市計画マスタープランにおける津久野駅の位置づけというのはどのようになっているかお示しをいただけますでしょうか。

◎建築都市局長（窪園伸一君） 本市の都市計画マスタープランでは、津久野駅は駅前拠点として、商業、サービス等の機能の充実を図る市民に密着した生活拠点に位置づけております。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 資料7をお示しをいただけますでしょうか。

これが左が堺市で右が浜松市の都市計画マスタープランにおける拠点の位置づけについてであります。ちょっと言葉は違いますけれども、浜松市も都心、副都心、地域交流拠点、地域生活拠点という位置づけを持っていまして、堺市も都心から都市拠点、地域拠点、駅前拠点と、ほぼ内容を見ていただくとおわかりをいただけますが、駅前拠点と地域生活拠点、細かい違いはありますけれども、ほぼ天竜川駅と津久野駅、同じような都市計画マスタープランにおける位置づけであるということが御理解をいただけたと思います。同じ政令指定都市の仲間であります浜松市の取り組みでありますけれども、非常に地域の皆さんも天竜川駅と津久野駅、似ている状況にあるんじゃないかというふうに考えておりますけれども、それでは、天竜川駅と津久野駅の違い、何があるのかについてお示しをいただけますでしょうか。

◎建築都市局長（窪園伸一君） 天竜川駅と津久野駅の違いについてでございますが、まず1日の乗降客数につきましては、天竜川駅は約5,400人、津久野駅は約1万7,800人となっております。また、天竜川駅は駅前広場がもともと片側のみであったことに対し、津久野駅は両側に駅前広場が整備済みであるという点が異なっております。加えて、駅舎の構造につきましても、改修前の天竜川駅は地上駅であり、改札口が北側に1カ所しかなく、南側から直接アクセスができない状況でありました。一方、津久野駅は周辺の線路が盛り土

状になっていることから、半地下構造の駅となっております。駅東側しか改札がないことから、駅西側から改札口へ向かうには、バリアフリー化されていない地下通路を通る必要がございます。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 今、御答弁をいただいたわけでありまして、大きく分けるとそんなに違いはないと思うんですが、まず津久野駅は天竜川駅の約3倍の乗降客数があるということでもあります。また、天竜川駅はこの課題が地域要望がさまざまあった時点では、駅前広場、片側しかなかった。JR貨物が持っていた土地を、マンションにJR貨物が計画していた土地を買収することから始めなくちゃいけなかったというところに比べて、津久野駅は既に両側に駅前広場が整備済みという状況であるということでもあります。また、駅の構造は天竜川駅は地上駅にもかかわらず、津久野駅は半地下ということになっているという違いがあるということでもあります。

こういった中で、天竜川駅、浜松市が積極的に取り組んでいただいて、南北の自由往来が可能になりました。そういった中で、津久野駅についてもぜひ取り組んでいただきたいと思っておりますけれども、今、どのように対応していこうと考えているかお示しをいただけますでしょうか。

◎建築都市局長（窪園伸一君） 天竜川駅と比べまして、津久野駅は半地下構造の駅となっており、また往来のための地下通路がバリアフリー化されていないなどの課題がございます。しかしながら、駅利用者の利便性やバリアフリーの確保という点では、やっぱり同様の課題があるというふうに考えてございます。今後、現在の駅舎の調査等を行った上で、どのように対応していくかということにつきまして、関係部署とも議論、検討してまいりたいと考えてございます。以上でございます。

◆24番（西哲史君） 議長。

○副議長（田渕和夫君） 24番西哲史議員。

◆24番（西哲史君） 天竜川駅の議論を見ていると、途中で浜松市が調査をして、自由通路は必要なのか調査をしてから、JRの皆さんにもう一度積極的な要望をしているということもあります。翻って、堺ではまだまだこの現状についての調査も進んでないように思います。もちろん交通量調査等々、職員の皆さん頑張ってくださいましたことも承知をしておりますけれども、しっかりと現状を確認をして、どのようにしていくか調査を行うとしても、予算が必要となると思いますので、必要な予算確保も含めてお願いをさせていただきたいと思っております。

以上、申し上げて、私の大綱質疑、終わらせていただきます。ありがとうございました。